

F・アドバンス 巨大災害に対する「防災・減災」プロジェクト

ペットは大切な家族の一員です！

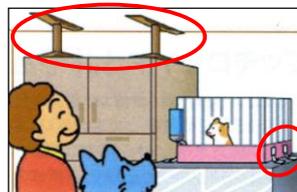
いざという「災害」のときでも一緒にいられるために「飼い主の心構え」と「ペットの防災対策」が大切です！



ペットを守るために「住まいの防災対策」が重要です。

大切なペットを災害から守れるのは飼い主だけです。ですから災害時にペットが安全でいられるように普段からペットに対する住まいの防災対策が大変重要になります。

ペットが室内にいる場合、普段ペットがいる場所は、地震のときに家具やケージが転倒や落下しないように固定をしましょう。また屋外の場合は、ブロック塀やガラス窓、破損や倒壊するおそれのある建物等の横は避けましょう。



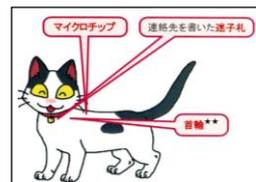
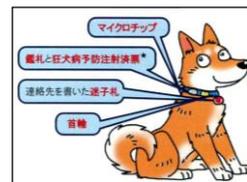
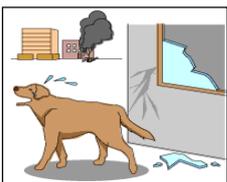
ペットを守るための「家族の話し合い」が大切です。

災害時に、ペットを連れて避難ができるか、また誰がどのようにペットを守るのかなどを家族で話し合っておくことが大切です。その他に、ご近所の飼い主仲間と、災害時は助け合う話し合いをしたり、緊急時に預かってくれる場所を確保しておくことも大切です。



ペットと離れ離れになったときの「迷子札」と「マイクロチップ」

災害時に、ペットと離れ離れになってしまったとき、誰かが保護してくれていたたり、保健所で預かられていることがあります。その時すぐに飼い主がわかるように、外から見て誰でもすぐにわかる迷子札や、半永久的に識別可能なマイクロチップを入れるといった対策をしておくことで安心です。また必ず「保健所」や「動物保護センター」に電話で問い合わせることも忘れずに！



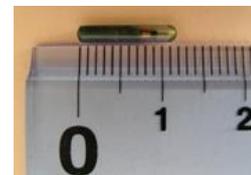
ペットの「マイクロチップ」とは…？

マイクロチップは、直径2mm、長さ約8～12mmの円筒形の電子標識器具で、動物の個体識別（身元証明）の方法です。マイクロチップの番号と飼い主の「名前」「住所」「連絡先」などのデータを、「動物ID普及推進会議(AIPO)」のデータベースに登録し、ペットが「迷子」や「盗難」、また「災害時」に離ればなれた際にリーダーで登録されたデータを読み取ることで、飼い主のもとに戻ってくる可能性が高くなります。そのため東日本大震災以降日本でも、犬や猫などを中心として利用者が急増しています。

※ リーダーは、全国の動物保護センターや保健所、動物病院などに配備されています。

一度体内に埋込むと、脱落や消失、また故障や外部からの衝撃による破損はほとんどなく、体への影響もほとんどなく安全性は高いです。埋め込みの際の痛みは普通の注射と同じくらいで、鎮静剤や麻酔薬などは通常必要ありません。費用は一般的に 3,500円～5,500円＋登録料1,000円 になります。

※ マイクロチップは発信機ではありませんので、GPS機能などはありません。



マイクロチップ



リーダーで読み取る

ペットを探すために、携帯に写真データを保存しておく。

ペットとはぐれてしまった際はまず市町村など自治体の「動物愛護センター」や「保健所」「警察」など公的機関に届け出ましょう。

ツイッターなどのSNSなどで情報を求める際も『いなくなりました。助けてください』と載せるだけでなく、「ペットと一緒に撮影した写真」を載せたり、「いなくなった場所」「ペットの特徴」などの情報を記せば、飼い主を特定する際の貴重な資料になります。そのために、ペットの写真データを携帯電話に保存しておきましょう。



ペットと一緒に「同行避難」が原則です。

災害が起きたとき、ペットが飼い主と離れ離れになってしまう事例が多数発生します。そして、その間にペットが負傷したり衰弱・死亡するおそれがあります。大切なペットの命を守り、一緒に生き延びるためには、まずは『同行避難』をすることが原則です。



ペットの備蓄品は「7日分」が必要です。

避難所において人命が最優先なので、人に対する準備はされていますが、ペットの飼育に必要なものは、基本的には飼い主が用意しなければなりません。家族の備蓄品と一緒にペット用の備蓄品も準備しておく必要があります。「フード」「水」「おやつ」「薬」などでできれば「7日以上」用意しておき、避難が必要な場合、一緒に持ち出せるようにしておくことが大切です。



ペットと一緒に過ごすために必要な避難用品

家族の一員であるペットと避難所で一緒にいるためには、ただペットを連れて避難すればいいわけではありません。ペットと一緒に過ごすためには、いろんなペット用の避難用具を準備しておく必要があります。



【優先順位 1】 命や健康にかかわるものは持ち出しやすい身近なところに置いておきましょう。

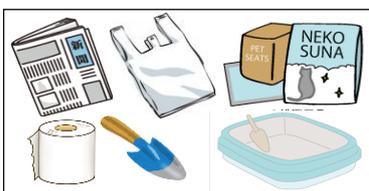
- 最低5日分のフード
- 水
- 薬・療法食
- 予備のリード・首輪
- 食器
- ガムテープ

【優先順位 2】 飼い主やペットの情報を記録したものを用意しておきましょう。

- 飼い主の連絡先
- ペットの写真
- 既往症・健康状態
- ワクチン接種状況
- かかりつけ病院

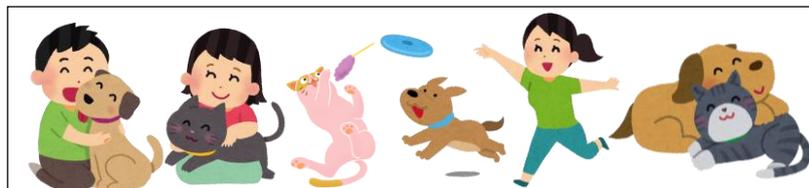
【優先順位 3】 ペット用品は分かりやすいところにまとめておきましょう。

- 排泄物の処理用具
- ペットシート
- キャリーバッグ
- おもちゃ
- ブラシ
- タオル
- 洗濯ネット



災害時はペットをリラックスさせましょう。

突然の災害では、ペットもパニックになり、ストレスから「むやみに吠える」「怖がり攻撃的になる」「食欲がなくなる」「排泄をしない」などいつもと違う行動をとることがあるので、ペットを落ち着かせてあげる必要があります。そのためには飼い主が動転していると動物にも伝わります。大きな声で叱ったり、命令したりすることも避けましょう。まずは飼い主が落ち着いて、普段どおりの言葉をかけて、なでたり抱きしめたりし、スキンシップをとってあげましょう。



避難所での注意事項と普段の「健康管理」と「しつけ」

災害時の避難生活において、動物が心の安らぎを与えることもある一方で、動物の「苦手な人」や「アレルギーの人」がいたり「吠えてうるさい」や「排泄物の処理や毛が飛んで不衛生」、「子どもが噛まれないか心配」といったトラブルも多くあります。また避難所におけるペットの取扱いは様々で、屋内で飼育が認められている場合や、ペット専用係留場が設置されている場合、また人とペットが車中生活するなどの避難所もあります。避難所でトラブルにならないよう普段から「キャリーバッグやケージに慣らしておく」「ブラッシングなどで体を清潔に保つ」「予防接種や寄生虫の駆除を受けておく」「お座り、待て、伏せなどの基本的なしつけをしておく」ことと、飼い主がペットの「熱中症」や「食欲があるか」などの健康管理をしてあげることもとても大切です。

